

## CSR-NPO 未来交流会 2025 &lt;令和 6 年度&gt;

## ブルーカーボンで脱炭素

開催日：3月25日(火)15:00-17:50

参加形式：参加 or Zoom 参加

参加費：無料

運営会場:AP 赤坂グリーンクロス会議室



■主 催 東京湾再生官民連携フォーラム

■協 力 経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

■参加者：合計参加 104 名（会場参加 56 名 zoom 参加 48 名）

| プログラム                                                 |                                        | 時間                  |
|-------------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------|
| ご挨拶                                                   | 東京湾再生官民連携フォーラム<br>議長 佐々木 淳             | 15:00<br>～<br>15:05 |
| ■行政報告(1)<br>ブルーカーボンに関する取組                             | 国土交通省 港湾局 海洋・環境課<br>港湾環境政策室 室長 中嶋 義全 氏 | 15:05<br>～<br>15:20 |
| ■行政報告(2)<br>東京港藻場創出の活動方針                              | 東京都 港湾局 港湾整備部 計画課<br>環境対策担当課長 堀江 良彰 氏  | 15:20<br>～<br>15:35 |
| ■交流 プレゼンテーション                                         |                                        |                     |
| 海に森をつくろうよ！PROJECT                                     | よこすか海の市民会議・よこすか海遊クラブ<br>代表 川口 将人 氏     | 15:40<br>～<br>15:55 |
| 千葉県館山市沖ノ島の「アマモ場」「森」の<br>再生活動とその広がり～大切なことを伝えたい～        | NPO法人たてやま・海辺の鑑定団<br>理事長 竹内 聖一 氏        | 15:55<br>～<br>16:10 |
| 「ここにいる、生きている。<br>～消えゆく海藻の森に導かれて～」<br>ハイライト版（28分 所要時間） | ドキュメンタリー映画監督<br>長谷川 友美 氏               | 16:10<br>～<br>16:55 |
| まとめ・講評                                                | 東京湾再生官民連携フォーラム<br>事務局長 池上 正春           | 16:55<br>～<br>17:00 |
| ■懇親会（同会場）<br>・名刺交換<br>・立食スタイル<br><br>※懇親会：費用 1,500円   | 質疑応答・意見交換                              | 17:00<br>～<br>17:50 |

ブルーカーボンで脱炭素をテーマ CSR-NPO 未来交流会 2025 を、去る 3/25 に開催した。会場での対面による開催は、コロナ後初めてとなる。Zoom 参加の方を合わせて 104

名の方の参加をいただいた。

企業と NPO の交流  
機会の場を設けるこ  
とが、東京湾再生官  
民連携フォーラム活



東京湾再生官民連携フォーラム 佐々木議長のご挨拶

東京湾、環境、海洋への関心の高い方々にお集まりいただき、講師の方々により、東京湾の現状や計画についてお話をいただいた。また N P O の講師の方々には、海の現場で、今どんなことが起きているのか、どんな状況になっているのか詳細を語っていただいた。

今回の交流会では、長谷川 友美 監督「ここにいる、生きている。～消えゆく海藻の森に導かれて～」ドキュメンタリー映画（ハイライト版）をご参加の皆様にご覧いただき、日本の海の環境の現状が映画を通して伝えることができた。捉えられている状況は、課題もあるが、希望もある。映画は日本列島の沿岸部に足を運び、そこに住む子どもたち、漁師、研究者と語り合ったシーンが多く出てくる。それぞれの想いが詰まった作品になっている。

監督への質問があり、その中で、「この映画を通じてそれを見た人にどんなことを感じてもらって、また、それは具体的にどんな行動をして欲しいなって思っているのか」について知りたいです。のご返事が「やっぱり一番届いて欲しいのは、私みたいに海と全く関わりのなかった人たちが、少しでも海のことを知ってほしいというところが一番です」のコメントをいただいた。

多くの方々が東京湾、海を意識してもらうことで私たちの自然環境、社会の環境がとても大切で、未来を形作る第一歩になることを確信できたと感じる。

（事務局）



長谷川監督のプレゼンテーション